



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を
一人一人が輝く子どもの姿を求めて

☆3月の目標

- ☆学習をがんばる
- ☆みんなとなかよく
- ☆笑顔であいさつ

☆配布物のお知らせ

- 1 学校便り

☆今後の行事計画

- 3月17日 卒園式・卒業式
- 4月14日 入園式・入学式

※紙面の都合で、作文等を短くすることもあります。ご了承願います。

☆四年二組

「ウナギのなぞを追って」を紹介するポスターを作ろう

ふる矢 夏希

「ウナギのなぞを追って」は、マリアナの海へ行ってウナギのたまごがどこで生まれるのかを調査したお話です。ウナギがどんな一生を送る生き物なのかを知るためにマリアナの南の海で調査をしています。たまごを産む場所が分かるまで八十年近くの年月がかかりました。レプトセファルスという、うなぎのち魚が最初にとれたのは、一九六七年、台湾近くの海で体長五十四ミリメートルでした。二〇〇九年、ついにたまごが二つ見つかりました。ウナギのなぞをとくために、これからもマリアナの海でウナギの調査は続きます。

わたしがこの本を本でおもしろいと思ったことは、新月のころに合わせるといっせいにウナギがたまごを産むことです。「いっせい」という現象がきょう味深いです。ウナギはとても不思議な生き物です。



☆四年二組

「ウナギのなぞを追って」を紹介するポスターを作ろう

相沢 ゆう心

「ウナギのなぞを追って」は、ウナギがどこでたまごを産むのかを八十年かけて調査したお話です。

日本中のウナギは、日本から真南の海までたまごを産みに行きます。調査は、一九三〇年ごろに始まりました。マリアナの海の前と海山の連なりが交わる地点で、新月のころにたまごを産むかもしれないと考えました。たまごを見つけたのは、二〇〇九年と八十年近くかかりました。しかし、ウナギがどんな一生を送るのかはまだ分からないことが多いので、調きたいは毎年マリアナの海に行きます。

ぼくは、ウナギのなぞを追って」を読んで、ウナギが日本から二千里口はなれたマリアナの海へ行ってたまごを産むことを初めて知りました。また、たまごを発見するまで八十年もの時間がかかったことにとってもおどろきました。



☆四年二組

「ウナギのなぞを追って」を紹介するポスターを作ろう

松本 藍里

「ウナギのなぞを追って」は、ウナギがたまごを産む場所がどこかを調べた人たちのお話です。

調査の第一歩としてマリアナの海でウナギがたまごを産む場所をさがしました。レプトセファルスというウナギの赤ちゃんを台湾の海で見つけました。海流の上流に行くほど、より小さなレプトセファルスがとれました。北赤道海流の海山とフロントが交わる地点で新月のころにたまごを産むと調査したいは考えました。二〇〇九年、ついにたまごが二つとれました。

わたしが「ウナギのなぞを追って」で意外だと思ったのは、たまごを新月のころに産むということです。八十年かけてたまごを見つけたところでは感動しました。とてもとても楽しめるお話です。



☆四年二組
ウナギのなぞを追って」を紹介するポスターを
作ろう

延原 佳典

「ウナギのなぞを追って」は、ウナギがどこでたまごを産むのかが明らかになるけてお話です。

調査は、レプトセファルスというウナギの赤ちゃんをさがすことから始まりました。レプトセファルスには、一日一本ずつふえる輪があります。その輪から、レプトセファルスが生まれてから何日たっているかがわかります。それをもとにして調査を続け、二〇〇九年五月にマリアナの海で、一・六ミリメートルのたまごを二つ見つけました。筆者が調査に加わってから三十六年の年月が流れました。ウナギのなぞはまだあり、調査は続いています。

ぼくは、ウナギの研究を何十年も続けていることに感動しました。たまごが八十年もかけて見つけられたことはすばらしいと思います。一日に一本ずつできる輪がたまごを見つけるのに役にたったことがおもしろいと思いました。



☆四年二組

「わたしの研究レポート」車のテストは何項目
城口 まい

一台の車が出荷されるまでに、どのようなテストがあるのかを調べることにした。なぜかというとお父さんが車の会社で働いているからきょう味を保持した。インターネットでクルマ子どもサイトというサイトを見た。①出来上がった車のテストは、一番最後に行われる。一台約千五百から二千項目のきびしいテストがある。テストにすべて合格したもののだけが出荷される。②しよとつテスト：万が一ぶつかったときに、乗っている人を安全に守れるか車をかべにぶつけて安全性を調べる。③デコボコ道のテスト：世界中の道をそうていして、デコボコ道でも走れるか、タイヤがパンクしないかどうかをテストする。④電波のえいきょうを調べるテスト：車にのっているコンピュータが電波のえいきょうを受けないかを調べる。⑤水路テスト：水でぬれた道でも安全に走るか、曲がるか、止まるかなどを調べる。⑥横風テスト：横からの強い風が吹いてきても安全に走れるかどうかを調べる。⑦低温テスト：寒い地域でも車が走るか、止まらないかどうかを調べる。⑧高速走行テスト：高速道路でも安全に走ることができるかをテストする。

車の安全を確かめるために、あらゆる項目のテストをしている。低温・横風テストなどの想像もしていなかったテストがたくさんあった。世界各地での走行テストも道路や気候のちがいに合わせて行われるようだ。人の命が関わる乗り物を作るといふことは、とてもせきにながらあるということだと思つた。今回、私がほんの一部だと思つた。だから、二千項目とはいつたいどんなテストをしているのかが気になった。

☆四年二組 知りたい星がほしい

丹野 祐希

晴れた夜に、自分の部屋のまどから星を見るのが好きなので、星の種類がどれくらいあるのかを調べようと思つました。インターネットのサイトをさがして使いました。星は、夜空の星の中で明るい星を結んで人や動物に見たてたものです。二十世紀のはじめに、国さい天文学連合が全世界共通の星を八十八こに決めました。星の大きさは、平方度という単位を使って表します。もっとも大きな星は、一うみへびで、約千三百三平方度で、もっとも小さな「みなみじようじ」は、約六十八平方度です。星を作る星の明るさは、「等級」という単位で表します。肉がんで見えるくらい暗い星を六等星とし、等級が小さいほど明るくなります。たん生日ごとにつけられた十二この星の他に、聞いたことのない星がたくさんあります。たとえば、「コップギ」、「やぎ」、「ろぎ」、「ほぎ」、「テールさんぎ」、「ポンプぎ」、「ががぎ」などがあります。星は、「春の星ぎ・夏の星ぎ・秋の星ぎ・冬の星ぎ」のように、その星ぎがよく見える季節に分類されています。世界には共通して決められた八十八この星ぎがあります。大きさは「平方度」、明るさは「等級」という単位で表します。おもしろい名前の星ぎがたくさんあって、どんな星ぎがいつ、どこで見ることができののかもっと知りたいと思つています。